

— 調査概要 —

【調査目的】 練馬区民の全死亡者における在宅見取りの実態や練馬区および隣接自治体の医療資源との関係性等を把握する。また、将来の在宅医療の需要を推計し、練馬区の在宅医療体制を検討するための基礎資料とする。

【対象】 人口動態調査の死亡小票データ

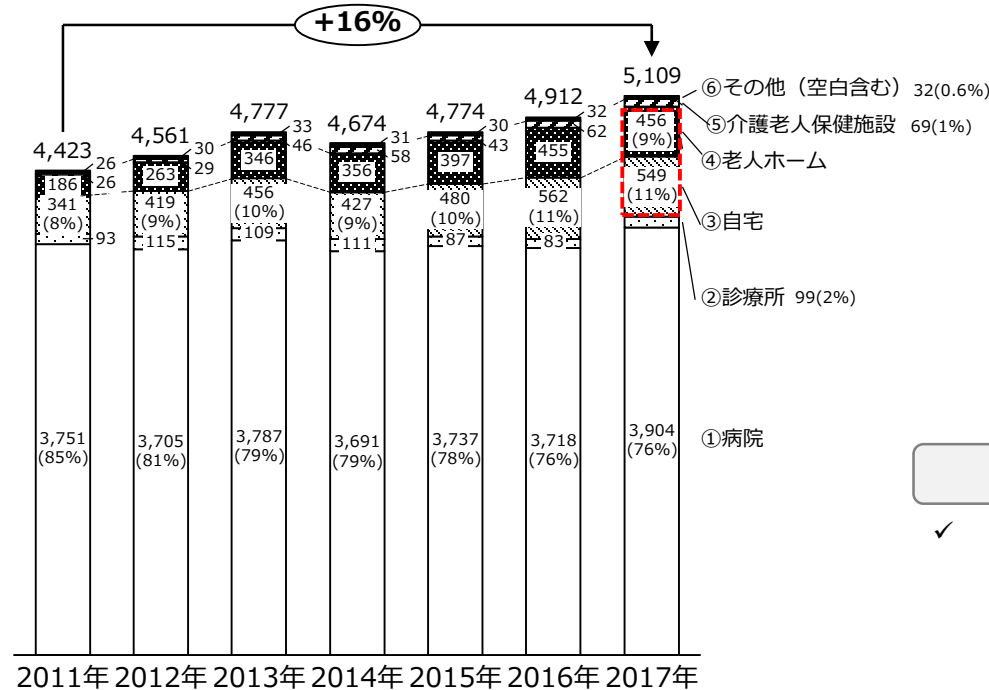
前回までの調査2011年1月1日～2015年12月31日までの分析結果に加え、2016年1月1日～2017年12月31日までの新規対象10,021件（異状死を除く）

死亡者数の推移と看取り場所の内訳

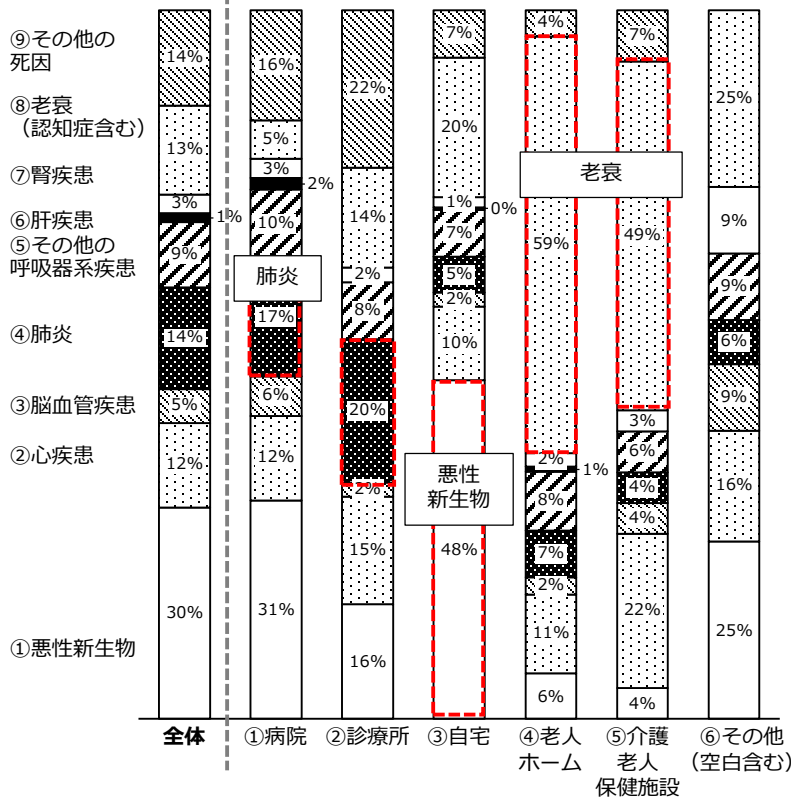
- 死亡者数は年々増加。2017年は2011年の1.16倍だった。
- 在宅看取り数と施設（老人ホーム・介護老人保健施設）看取り数は増加傾向。
- 2017年の在宅看取りは1割を超え、施設看取りと合わせ2割を超えている。

*「④老人ホーム」は、特別養護老人ホーム、有料老人ホーム、介護老人ホーム、軽費老人ホームを含む

*「⑥その他（空白を含む）」は、空白のほか、指定障害者支援施設、警察署、屋外施設などを含む



看取り場所別の死因(2017年)



- 練馬区民の最も多い死因は悪性新生物で、次いで肺炎、老衰だった。
- 病院看取りでの死因は、区全体の傾向と大きな差はなかった。
- 在宅看取りでは、悪性新生物の割合が高く約5割であった。
- 老衰（認知症含む）は、老人ホームで約6割、介護老人保健施設の約5割を占めていた。
- 肺炎は、在宅で5%、老人ホームで7%であり、多くが病院、診療所で看取られていた。

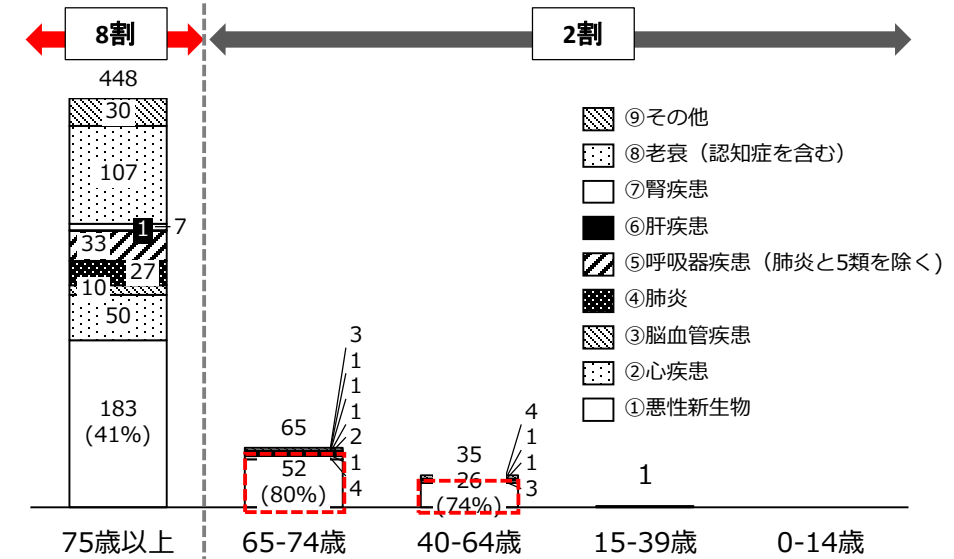
平成29年度練馬区医療・介護資源調査より

【診療所における看取りの実績】
※訪問診療を実施していると回答した診療所・・・70か所
※対象期間・・・2016年1月～12月の1年間

○在宅看取り人数 195人
○訪問診療を行っていたが、状態悪化等の理由で病院での看取りとなった人数 116人

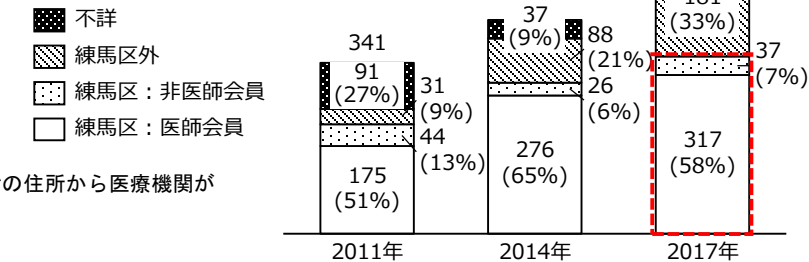
在宅看取りにおける死因(2017年)

- 在宅看取りの約8割が後期高齢者だった。
- 前期高齢者および64歳以下の在宅看取りの約8割の死因は悪性新生物だった



在宅看取りをした医療機関の所在地

- 在宅看取りの354件（65%）は区内医療機関だった。

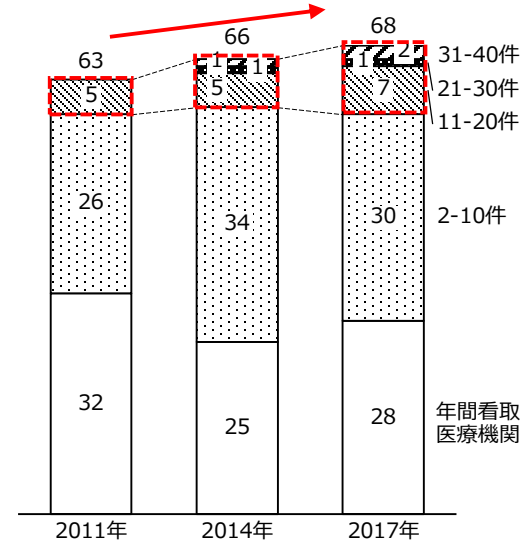


*「不詳」は、死亡診断書/死体検案書発行者の住所から医療機関が特定できない場合

在宅看取りを行った区内の医療機関数と看取り件数

在宅看取り件数ごとの医療機関数

- 看取りを行った医療機関数は増加した。
- なかでも年間11件以上の在宅看取りをした医療機関数が増加。



医療機関の看取り件数ごとの看取り数

- 年間看取り数1件の医療機関数による看取りの割合は減少している。
- 一方、年間11件以上看取る医療機関による看取りの割合が増加している。

